

運輸DXラボ本格始動

効率化関連の情報発信

ナブアシスト（江口大介社長、前橋市）は運送事

業者のDX（デジタルトランスフォーメーション）対応を支援するための情報サイト「運輸DXラボ」の本格運用を開始した。これまで同社は自動点呼やドライバー勤怠管理、配車から収支管理までの基幹業務システムなど、複数の運送業界向けサービスを提供してきた。個別導入ではDX導入の効果が限定されるため、統合運用による効率化に関する情報発信を7月から開始。ビッグデータから生成AI（人工知能）活用によるコンサルティングを強化していく。（佐々木健）

新サイトで情報提供するのは、基幹業務システムの呼（ナブアシスト）、「Navisia（ナビシア）」（運送販売クラウド）、勤怠管理の「ナビシア乗務員時計」、自動点呼に対応するサービスで、導入から運用

までの期間・工程を短縮している。

現場での過去の知見を、蓄積したリアルタイム・データで補強しながら、運送業界のDX最適解を確立することを目指す。

新サイトでは、自動点呼から勤怠管理、運行支援、基

7月から情報発信を強化した「運輸DXラボ」



AI活用コンサル強化

ナブアシスト

幹業務システムの連携により、何が変わるかを導入事例とともに紹介している。さらに記事コンテンツとして、業界で「今知りたい」と思われるコンテンツを追加していく。

ユーザーの中には「過去から活用している基幹系があり、それは使いたい」という要望もある。そうしたユーザーには「一芸」として個々のサービスを提案する。

今後、四つのサービスには法令改正に対応した新機能、ユーザーからの提案に対応した改裝を進める。新サイトはそうした情報提供とともに、運送業界のDX導入に関する情報の発信源として活用していく。